

第1章 平成28年度 生乳検査成績

1. 合乳検査成績

(1) 合乳成分検査成績

道内で生産し取引される生乳について成分検査を実施しました。

指定生乳生産者団体加入の108受入箇所(以下「インサイダー」という。)の全合乳と、一部これに属さない農協および生産者8団体(以下「アウトサイダー」という。)に係る合乳について検査を実施しました。

ア. 方 法

(ア) 試 料

生乳取引の行われる工場において、検査日に集乳施設(以下「CS」という。)、およびバルククーラー(以下「BC」という。)から搬入される合乳を取引単位(受入箇所)の試料としました。

(イ) 検査回数

旬間1回以上

(ウ) 試料採取箇所および方法

CSおよびBCを経由した試料は、タンクローリーから採取しました。

なお、試料の採取および保管に当たっては、当該乳業工場に1名ずつ業務を委託した生乳検査事業協力管理者(151名)の協力を得ました。

(I) 検査項目および方法

- a. 脂肪率・・・・・・・・・・光学式乳成分測定機によりました。
- b. タンパク質率・・・・・・・・・・ ”
- c. 乳糖・灰分率・・・・・・・・・・ ” (乳糖率+1.00として算出)
- d. 無脂固形分率・・・・・・・・・・ ” (タンパク質率+乳糖・灰分率として算出)
- e. 全固形分率・・・・・・・・・・ ” (脂肪率+無脂固形分率として算出)

イ. 結 果

(ア) 合乳成分検査乳量

表1に地区別合乳検査乳量を示しました。

本年度の総検査試料数および検体数はそれぞれ81,796試料、163,592検体(1試料当たり2検体)で、検査乳量は3,801,439,920.9kg、うちインサイダーの検査乳量は3,792,344,274.9kg、アウトサイダーは9,095,646.0kgでした。

なお、合乳成分検査乳量は前年度と比較して99.7%でした。地区別では桧山地区の94.5%から十勝地区と宗谷地区の100.5%の範囲でした。

インサイダー農家数では、28年度末5,650戸(前年度末5,807戸)と前年度より157戸、2.8%減少しました。

(イ) 合乳成分検査成績

表 2 に地区別合乳成分検査成績を示しました。

全道の脂肪率、タンパク質率、無脂固形分率、全固形分率および乳糖・灰分率の年度平均はそれぞれ 3.958、3.319、8.769、12.728、5.450% で、前年度に比較して乳糖・灰分率は 0.016 ポイント下回り、脂肪率、タンパク質率、無脂固形分率、全固形分率はそれぞれ 0.017、0.016、0.001、0.019 ポイント上回りました。

(ウ) 合乳成分検査成績（分布）

表 3 に合乳における成分ごとの度数分布を示しました。

脂肪率の最多分布区分は 27 年度と同一の 3.900～3.999% であり、割合は 24.8% と 27 年度(23.6%) に比べ 1.2 ポイント増加しました。3.700% 未満の割合は、4.2% と 27 年度(5.5%) に比べ 1.3 ポイント減少しました。一方、4.100% 以上の区分については 18.8% と 27 年度(15.9%) に比べ 2.9 ポイント高くなり、全体的には 3.700～4.199% の範囲に 90.2% が集まっていました。

無脂固形分率の最多分布区分は 27 年度と同様に、8.700～8.799% 区分の 36.7% (27 年度 38.6%) であり、特筆すべき全体的な分布の変動もありませんでした。

タンパク質率での最多分布区分は 3.300～3.399% 区分の 37.4% (前年度 41.1%) であり、27 年度に比べ特筆すべき全体的な変動もありませんでした。

乳糖・灰分率の最多分布区分は 5.400～5.499% 区分の 69.6% であり、27 年度(63.1%) と同区分でありましたが、5.300～5.399% 区分が 4.0 ポイント、5.400～5.499% 区分が 6.5 ポイント増え、分布は低い区分にシフトしました。

(I) 脂肪率と無脂固形分率間の相互関係

表 4 に平成 6 年度以降の脂肪率と無脂固形分率の相互関係を示しました。両成分間の相関係数は 0.49 で、回帰式は無脂固形分率 = $7.417 + 0.343 \times$ 脂肪率でした。

(オ) 合乳検査乳量および成分率の月別変動

図 1 に合乳検査乳量および成分率の月別変動を示しました。

検査乳量は 5 月にピークを迎え 11 月まで減少し、以降 3 月まで増加傾向を示しました。上期の累計乳量は 27 年度対比 101.5%、下期累計乳量は同 97.8%、通年では 99.7% でした。

平成 28 年度の平均脂肪率は 3.958% であり、平成 14 年度以降緩やかな低下傾向が続いておりましたが、平成 28 年度は 0.017 ポイント向上しました。

平成 28 年度の平均無脂固形分率は 8.769% で、前年度と比べ 0.001 ポイント向上しました。

平成 28 年度の平均タンパク質率は 3.319% で、27 年度(3.303%) より 0.016 ポイント向上しました。平均乳糖・灰分率は 5.450% で、前年度(5.466%) に対して 0.016 ポイント低下しました。